

米国 農務長官がカリの関税引き下げで大統領を称賛

[FreshFruitPortal](#) 2025年3月10日

ブルック・ロリンズ米国農務長官は声明で、ドナルド・トランプ大統領のカナダとメキシコからの輸入品に対する関税の調整、特に「生産者が依存する肥料の主要成分」であるカリの関税引き下げを称賛すると述べた。

ロリンズ長官は「USMCA(米国、メキシコ、カナダの貿易協定)でまだカバーされていないカリの関税を25%から10%に引き下げるというトランプ大統領の発表は、農業生産者の植え付けシーズンの最盛期に主要な投入資材を確保し、そのコストのやりくりを助けるとともに、長期的な農産物貿易関係を強化するための重要なステップである」と述べた。(以下「」は同長官の声明での発言)

米国政府はホワイトハウスの[プレスリリース](#)で、現在(3月6日時点)適用される関税率は、USMCAの原産地規則を満たさない物品に対しては25%、USMCAの優遇措置外のカナダ産エネルギー製品は10%の低い関税率、USMCAの優遇措置外でカナダとメキシコから輸入されるカリに対しては10%の低い関税率、USMCAの優遇措置を申請し適格と認められたカナダとメキシコからの輸入品は無税であるとしている。

『カリ』はカリウムを主成分とする一群の鉱物を指す。それらは植物の成長に不可欠な成分であり、主に肥料として使用される。カナダは世界最大のカリの生産・輸出国であり、基礎埋蔵量は110億トンとされている。

「カナダとメキシコからの一時的な関税免除は、米国の農業に真の成果をもたらしながら、貿易交渉を進める賢明で戦略的な動きである。カナダは、乳製品、卵、家禽等の公正な取引慣行にコミットすべきであり、メキシコは開かれた市場を維持しなければならない。大統領のリーダーシップは、米国の生産者が、公正な取引、コストの低減、市場アクセスの強化のために戦いながら、最前線に立ち続けることを保証するものである。」

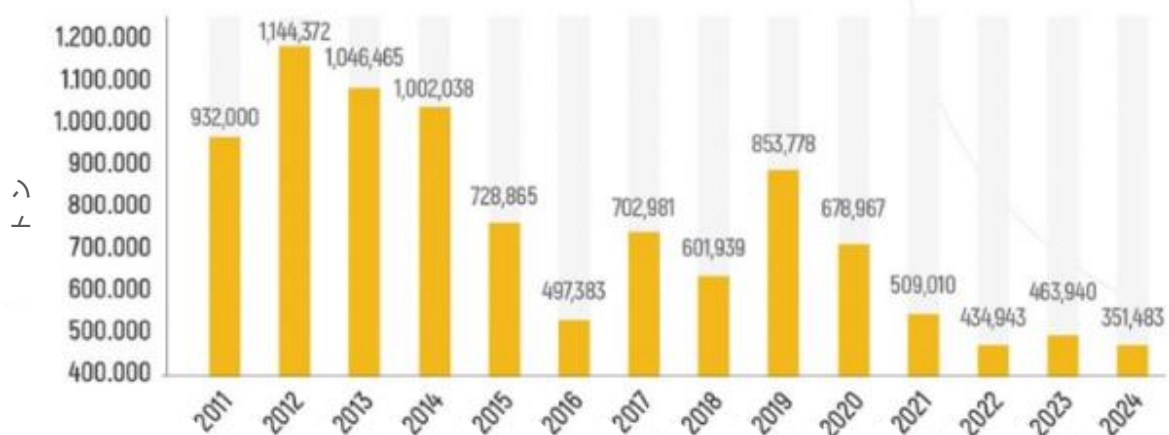
ブラジル オレンジ果汁の在庫が24%減少し史上最低に

[FreshPlaza](#) 2025年3月10日

CitrusBR(オレンジ果汁業者の団体の)の会員各社の独立監査法人が実施し、その後外部監査法人によって内密に統合された調査の結果により、2024年12月31日にCitrusBRの会員企業が世界中に保有していたブラジル産オレンジ果汁(FCOJ換算)の在庫量は35万1,483トンで、前シーズンの46万3,940トンと比較して24.2%減少したことがわかった。この数字は、歴史的に最も低い数字である。果実の最終加工データと工業的歩留りは、2025年後半にCitrusBRによって開示される。

CitrusBR会員企業が世界中に保有する ブラジル産オレンジ果汁在庫量の推移 - 各歴年末

ブリックス値66のFCOJ換算トン数(FCOJ+NFC)



訳注: グラフの一部が数値と一致していません。